



二十八部衆

釈迦如来坐像

鎮護国家鬼門除けのため、元明天皇の勅令により創建。奈良時代・和銅年間(708)に良弁僧正が開祖した阿星寺五千坊の中心寺院のひとつです。  
**【国宝】**本堂、三重塔 **【重文】**本尊千手観世音菩薩像、二十八部衆立像、雷神立像、釈迦如来坐像、絹本着色浄土曼荼羅図、絹本着色涅槃図、紙本墨書常楽寺勧進状、石造燈籠、錫杖、金銅飯食器、銅飯食器、金銅火舎 **【重美】**釈迦八相図、釈迦如来像及四天王図

<b>【拝観料】</b>		<b>【駐車場】</b> 普通車60台 大型バス可(無料)		<b>道しるべ</b> 
	1名料金	30名以上		
大人	600円	550円	<b>【時間】</b> 午前10時～午後4時 ※拝観は事前予約が必要です	
中高生	300円	250円	<b>【所在地】</b> 滋賀県湖南市西寺6丁目5-1	
小学生	無料*	100円	<b>【電話】</b> ☎0748-77-3089 FAX 0748-77-2550	

※は保護者同伴時のみ。



彌陀如来

釈迦如来

奈良時代・天平年間(729～749)に、金剛菩薩良弁僧正が建立した勸願寺。聖武天皇が大仏造営のため、紫香楽宮に遷都されていた際、良弁僧正に世継ぎができるように祈請を申し伝えたところ、まもなく皇女が降誕。それに因み子安地藏尊を行基菩薩に刻ませて本尊とし、皇女の長寿を願ったことから「長壽寺」という寺号を授かったことが始まりとされています。  
**【国宝】**本堂、春日厨子 **【重文】**弁天堂、阿彌陀如来坐像、釈迦如来坐像、丈六阿彌陀如来坐像、十六羅漢図 他多数

<b>【拝観料】</b>		<b>【駐車場】</b> 普通車20台 大型バス可(無料)		<b>道しるべ</b> 
	1名料金	20名以上		
大人	600円	550円	<b>【時間】</b> 午前9時～午後4時 ※団体の方は要予約、個人の方は予約不要です。	
中高生	300円	250円	<b>【所在地】</b> 滋賀県湖南市東寺5丁目1-11	
小学生	無料*	100円	<b>【電話】</b> ☎0748-77-3813	

※は保護者同伴時のみ。

# 常楽寺

阿星山 (あせいざん)



**ハラダのおすすめ**  
 本堂・三重塔の周りには三十三体の観音石仏が祀られていて、それを全てお参りすると、西国三十三所観音巡礼したのと同じだけのご利益があるそう。約15分ほどで全てお参りできるので、ぜひ挑戦してみてくださいね。

御本尊:千手観世音菩薩(秘仏) 御利益:すべての願い

## 旅のはじまりは常楽寺から

JR石部駅からバスで約20分。湖南三山をめぐる最初のスポット、常楽寺はのどかで閑静な集落にあります。境内に入るとまっさきに目に飛び込んでくるのは、檜皮葺の風情ある本堂とその後ろに悠然とそびえる三重塔。どちらも国宝に指定されている威風堂々とした名建築で、その重厚さは圧巻です。春にはツツジが咲き誇り、あでやかな彩を添えとか。

本堂へあがり、仏像を拝観。本尊(秘仏)が安置されている厨子の迫力もさることながら、目を奪われるのはその両脇にずらりと並ぶ二十八部衆立像です。大きさはどれも小ぶりですが、それぞれ恐ろしい顔、おだやかな顔…と個性豊かな表情が印象的。深い尊厳を感じる一方、どこか可愛らしくもあつたりして思わずひとつひとつじっくりと眺めてしまいます。本堂を出て、左手にある長い階段を上がれば、三重塔が目の前に。高さ23m、幅4.5m、見れば見るほど完璧なバランスに見惚れます。屋根を支える垂木が美しいラインを描いており、これぞ機能美だと納得。室町時代の職人が情熱と技術を傾注した日本古来のグッドデザインといえるでしょう。

# 長壽寺

阿星山 (あせいざん)



**しもばやしのおすすめ**  
 山門をくぐると200m続くもみじのトンネルを歩けます。紅葉の秋はもちろんのこと、青もみじが美しい新緑の季節もおすすめ!

御本尊:子安地藏菩薩(秘仏) 御利益:子宝・安産・長寿

## 散策気分を楽しみつつ、長壽寺へ

常楽寺とほど近い距離にあるのが、長壽寺。坂道をぶらぶらと歩けば、常楽寺から約15分で到着します。「長寿」というめでたい名前のこのお寺は湖南三山の中で国宝に指定されたのが一番早く、全国でも17番目だとか。参道を抜けてすぐ右手には「日本最大級の多宝塔」と呼ばれる石の塔があります。これは聖武天皇の菩提を弔うために鎌倉時代に建立されたもの。ゴツゴツと無骨な姿が味わい深く、木漏れ日の中でウトウトと眠る巨人のような趣です。国宝の本堂は、国宝である春日厨子をはじめ、数多くの重要文化財が安置されている“歴史の宝庫”。そんなお宝をじっくり堪能したあと、本堂裏手の収納庫へ。重そうな扉の向こうには、なんと3mほどの巨大な黄金(木造)の仏像が鎮座しています。名は「丈六阿彌陀如来坐像」。戦後、米軍によって大津の地へ持ち出されたことがあるとか。このスケールに米軍も魅せられたにちがいありません。かつては長壽寺にも常楽寺と同様に三重塔がありましたが、織田信長によって、安土城山中の信長の菩提寺である惣見寺へ移築されています。



梵天(上)、四天王(多聞天、広目天)(中)、十二神将(下)

帝釈天(上)、四天王(持国天、増長天)(中)、十二神将(下)

奈良時代・和銅年間(708～715)元明天皇勅令により鎮護国家の道場として草創され、はじめは和銅寺と号した。桓武天皇が病気の際、最澄が霊仏出現の池水を以て薬師仏に病氣平癒の祈禱をし、その霊水を天皇に献上したところ、病気が平癒したそう。この縁で天皇から「善水寺」の寺号を賜ったといわれています。  
**【国宝】**本堂 **【重文】**本尊薬師瑠璃光如来像(秘仏)、梵天、帝釈天像、四天王像、不動明王像、僧形文殊菩薩像、兜跋毘沙門天像、金剛力士像、二天王像(持国天、増長天)、金銅釈迦誕生仏

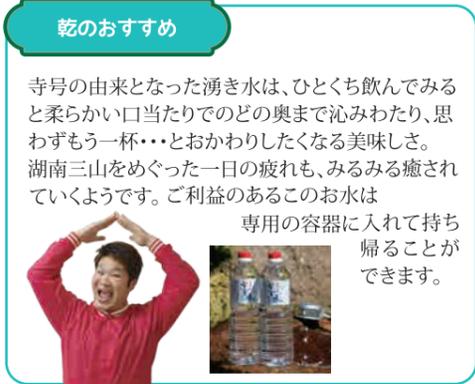
<b>【拝観料】</b>		<b>【駐車場】</b> 普通車70台 大型バス可(無料)		<b>道しるべ</b> 
	1名料金	20名以上		
大人	600円	550円	<b>【時間】</b> 午前9時～午後4時 (3月～10月は午後5時まで) ※団体の方は要予約、個人の方は予約不要です。	
中高生	300円	250円	<b>【所在地】</b> 滋賀県湖南市岩根3518	
小学生	無料*	100円	<b>【電話】</b> ☎0748-72-3730	

※は保護者同伴時のみ。

善水寺: 令和6年4月～令和7年12月頃まで、檜皮屋根の普き普き工事が行われます。

# 善水寺

岩根山 (いわねざん)



**乾のおすすめ**  
 寺号の由来となった湧き水は、ひとくち飲んでみると柔らかい口当たりでのどの奥まで沁みわたり、思わずもう一杯…とおかわりしたくなる美味しさ。湖南三山をめぐる一日の疲れも、みるみる癒されていくようです。ご利益のあるこのお水は専用の容器に入れて持ち帰ることができます。

御本尊:薬師瑠璃光如来(秘仏) 御利益:病氣平癒・身体健全・厄除祈願

## 最後に訪れるのは、静かな山中に佇む善水寺

「岩根」バス停から徒歩で向かうとハイキングコースのような参道があり、美味しい空気を味わいながら登れて気持ちがいい。途中、観音堂という小さなお堂を鑑賞し、善水寺に到着。そこは山の自然と見事に調和した風流なお寺でした。国宝の本堂は入り母屋造りの檜皮葺、軒返りが優美な曲線を描く美しい名建築です。本堂の横には日本庭園があり、独特の石組みや樹木の配置が古来の「侘び寂び」を表現しているようです。ここ善水寺にも重文に指定されている仏像が多く安置されています。湖南三山をめぐることで一体どれほどの至宝に出会うことができるのか…これほどに贅沢な旅はめったにあるものではないでしょう。善水寺でまず鑑賞できるのは、本堂外陣にある二体の仁王像。力強く足を広げる姿は圧巻の迫力です。内陣へ進むと、梵天・帝釈天・四天王・十二神将が祀られており、これらオールキャストがすべて一堂に会する寺院は全国でも希少だとか。裏堂にも貴重な仏像が並び、特に不動明王は県内最古のもの。ひんやり冷たいお堂の中でも、背中の炎が熱く感じる名作です。

## ご利益にあずかる 湖南三山はすべて祈願寺。 生きている今の願いを聴き、叶えてくれるお寺です。

くもりなき 御代をおおきて久方の 月日とともに めぐるにし寺

阿星山 常楽寺 御利益 除災招福 現世安穩

本尊 千手観世音菩薩

御本尊:千手観世音菩薩(秘仏)

世を照らす 佛の誓 阿星山 子安守りの 有明けの月

阿星山 長壽寺 御利益 子宝・安産 延命長壽

本尊 子安地藏菩薩

御本尊:子安地藏菩薩(秘仏)

岩根山 善水寺 御利益 病氣平癒 身体健全

本尊 薬師瑠璃光如来

岩根より清く流れて ぐぶもよき 水はむすぶに たへじとぞ思ふ

御本尊:薬師瑠璃光如来(秘仏)

観世音菩薩は、人々を“観”察して、人々の声である“音”を聞いてたすけてくれます。千本の手はどのような衆生をももたらさず救済しようとする観音の慈悲と力の広大さを表しています。全ての願いが叶うといわれ、夫婦円満や恋愛成就などにもご利益があります。※衆生:生命のあるものすべて。特に、人間をいう

地藏とは、サンスクリット語でクシティガルバ。クシティは「大地」ガルバは「胎内」「子宮」の意味。大地が全ての命を育む力をもっているように苦悩の人々を無限の大慈悲の心で包み込み救うところから名づけられたそう。子安地藏菩薩とは、子安と名のつくとおり、子を安らかに産むこと・安産・子宝にご利益があります。

薬師瑠璃光如来は、菩薩であった時代に「十二の大願」を全て果たして如来になりました。その中でも多くの人が苦しめられる「病氣」の災いを除き、安楽を与えるという部分が強調され病氣平癒にご利益があります。医薬を司る仏という意味で“医王”との別名もあります。

北斗の ~知っておきたいちよこっとトリア~

菩薩とは、来世で如来になることが決まっており、今は仏の教えを守り、成仏を求める修行者のこと。如来とは、全ての悟りを得て、仏(仏陀)になったもの。仏の中で、最高の境地に至った存在、最高位にあります。

